



南林間小だより

大和市南林間9-3-2

☎ 275-3141



12月号

地域の人たちに会うと、南林間小学校の子どもたちはよく声をかけてくれることを話してくれます。下校時に横断歩道で旗を振っていると、「いつもありがとうございます。」や「お疲れ様です。」など声をかけてくれるとのこと。そのことを、とてもうれしそうに地域の方はお話ししてくれます。

11月23日、南林間小学校で「ふれあい広場」が行われましたが、たくさんの方々が参加し、とても温かな雰囲気でした。こうした地域や自治会、PTAの保護者の方々の温かな雰囲気が、子どもたちのやさしさや人懐っこさにつながっていると思います。開会式や閉会式では、5年生3人と6年生1人が司会を務めてくれました。最後に貴重な経験となったなど一人ひとりが感想を伝えてくれましたが、とても堂々としたすばらしい司会でした。

また、4年生を中心とした子どもたちがソーラン節を披露してくれました。和太鼓の迫力と子どもたちの躍動感ある踊りがとても感動しました。10月26日の南林間文化祭は、残念ながら雨で中止となっていたので、法被を着てがんばっている子どもたちがいたことに、踊ることができてよかったと思うと同時にとてもかっこよく思いました。

2学期は日頃の授業はもちろんのこと、運動会や校外学習など、様々な学校行事があり、子どもたちは、行事ごと自分なりに目標を立ててがんばってきました。運動会の練習の時や授業を参観した後など子どもたちに「よくがんばっていたね。」と声をかけると、子どもたちはとてもうれしそうな顔をします。子どもたちは自分のがんばりに気づいていない、がんばっていることに自信が持てていないのかもしれませんが。目標を達成できた子どもや達成できなかった子どもがいると思います。結果が期待したものではなかったとしても、そこに向かうための努力をしてがんばっています。努力したことにより、子どもたちは着実に成長しています。保護者の方からも、2学期に努力を重ねた子どもたちの話を聞いて、がんばったことを認めて、褒めてほしいと思います。 (校長)

先月、武田緑さんを講師にお招きし「学校の中の多様性対応をみんなで考える時間」というタイトルで教員研修を行いました。まず、自分たちの「ふつう」を見直してみました。すると、わずか数個の質問(【例】「読書は座って読むのがふつう?」、「長い時間、黙ってじっとしておくのは苦手?」など)で、教員間の中でも、「ふつう」が異なることに気づき、驚き?!もありました。次に「多様性とは、いろんな『ふつう』がある」、「人はもともと皆違う」ということを再認識した上で、子供たちの困り事の原因をその人ではなく、学校環境に求め、「『ふつう(=環境)』をアップデートしよう!」という気持ちで、各教員がチャレンジしたいこと変えてみたいことを考えました。そして今、「まずは、やってみよう!」という気持ちで出来るところから始めています。10月号でお知らせした「校内の居場所づくり」とあわせ、子供たちの困り事を減らしながら、「安心・安全な学校」を目指します。(教頭)